

総合研究（2021-2023 年度）最終報告

研究部門	(Ⅰ) 地方創生 ・ (Ⅱ) S D G s ※丸で囲む 重点 ・ 関連	2021～2023 年度
分担研究テーマ	「木育」と大学の関係強化	
研究者名	経済学部 早尻正宏	
研究目的	北海道発祥の「木育」が全国に広がっている。「木育」とは、北海道庁の定義によれば、「子どもをはじめとするすべての人が『木とふれあい、木に学び、木と生きる』取組」である。その狙いは「子どもの頃から木を身近に使っていくことを通じて、人と、木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育むこと」にあるが、未就学児や小中学生、高齢者の認知度は高い一方で、若年世代の認知度は総じて低い。今回の研究では、本学の学生を対象に、S D G s（「目標 12 つくる責任、つかう責任」、「目標 15 陸の豊かさを守ろう」）に関連付けながら、自然環境（森林）と産業経済（林業、木材加工業）のつながりを意識した「木育」の実践を試みた。	
経過報告	【2021 年度】 経済学部の開講科目である専門ゼミナール（3 年生）で「地域研修Ⅱ」の一環として「木育」を実施した。実施経過は次の通りである。 2021 年 9 月 24 日 株式会社河野銘木店の事務所兼展示場 同社代表取締役様のご挨拶・事業説明 商品展示場の視察 カッティングボードの図案づくり 2021 年 9 月 27 日 河野銘木店の工場 家具工場の視察 カッティングボードづくり 2021 年 10 月 15 日 河野銘木店の事務所 北海道石狩振興局森林室による木育のレクチャー 河野銘木店の社員 2 人との意見交換会 【2022 年度】 在外研修を当初予定していたため実施せず。 【2023 年度】 在外研修期間であり実施せず。	

総括

【成果と課題】

「地域研修Ⅱ」は北海道庁の協力を得て、石狩振興局森林室の木育事業の一環として実施した。札幌市豊平区の株式会社河野銘木店は、オーダーメイドで無垢材の家具を製作・販売する会社として道内で抜群の知名度を誇る。近年は、北海道産木材（道産材）の利用にも力を注いでいるところである。

今回の研修では、同社社長への聞き取り、商品展示場の視察、家具工場の視察、カッティングボードづくり、北海道石狩振興局森林室による「木育」に関するレクチャーの受講、河野銘木店の社員との意見交換会を実施した。学生自らが木を選び、デザインしたカッティングボードの製作では、実際に頭と身体を動かすことを通し、「木育」の理解をより一層深めることができた。

河野銘木店には木育マイスターの資格を持つ社員が在籍しており、「木育」に対して熱い思いを持つ事業者である。かつ本学から至近の場所にあり、濃密な交流を継続的に行える可能性が高い。SDGsの「目標 12 つくる責任、つかう責任」および「目標 15 陸の豊かさを守ろう」を実地で体感する実践的な講義の展開が期待できる。今後は、ゼミナール活動の一つに「木育」を位置付けつつ、他のゼミナールとの共同開催、一般教育科目との連携の可能性について検討していきたい。



カッティングボードを製作する「地域研修Ⅱ」受講生
＝2021 年 9 月 27 日，札幌市，早尻撮影